

公衆衛生だより No.25

発行

財長野市保健医療公社
TEL 026-295-1199

http://www.hospital.nagano.nagano.jp/

地域がん診療連携拠点病院

病院機能評価認定病院

臨床研修病院



長野市民病院
Nagano Municipal Hospital

ふれ愛

〈健康が一番〉

開院15周年を迎えて

病院長 竹前紀樹



長野市民病院は、市民の皆さまのご要望により平成7年6月1日に誕生いたしました。開院当初から三大生活習慣病を主体とする高度先端医療の提供に努め、近年は、特にがん診療が高く評価され、平成19年1月には、厚生労働省から「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。年々増加の推移を辿る「がん」は、2人に1人が思うといわれており、厚生労働省の講じるがん対策の1環として、予防対策の推進及びがん医療水準の向上が掲げられております。

昨秋、この対策に基づき「がん診療連携拠点病院」の整備に関する指針に定められた要件について審査を受けた長野市民病院は、これまでの実績が高く評価され、今年4月から「地域がん診療連携拠点病院」の指定が継続されることとなりました。

一方、平成15年度から

進めて参りました増改築事業は、平成19年度末竣工、平成20年4月に、新病棟100床と24時間365日対応の救急センター、長野市医師会との協働による「長野市民病院・医師会 急病センター」の稼動に至りました。平成21年度は、およそ2万人の救急患者と3千人の救急車搬送患者を受入れ、長野市北部地域を中心とした救急の拠点病院として、軽度から重度の救急患者さまの受入を担う役割を果たしております。

こうした積み重ねとともに、長野市民病院は、来月の6月1日を以て、開院15周年を迎えます。6診療科から28診療科、100床から400床へと発展を遂げてこれしたのも、地域住民の皆さま、ボランティア「はづまの会」、長野市当局、長野市医師会・歯科医師会・薬剤師会、地域の医療福祉機関等の皆さまの、多大なお力添えによる賜物であると心より御礼申し上げます。

長野市民病院の理念を基軸に、地域医療機関の皆さまとともに良好な機

能分担当を密に図りながら、より高度で安全な医療水準の向上に努め、安心して暮らせる地域づくりに寄与して参る所存でございます。

引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

長野市民病院 開院15周年記念講演会

(第10回 市民健康講座) 講演会は手話通訳付です。

市民を対象とした公開講座を開催いたします。多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

テーマ「乳がん」

＜第1部 長野市民病院での乳がん治療＞ 14:10～15:00

『長野市民病院における乳がん治療の現況』

講師:呼吸器外科・乳腺外科統轄科長 西村 秀紀 先生

『リンパ浮腫と上手につきあうために』

講師:医療リンパドレナージセラピスト・緩和ケア認定看護師

下谷 由紀子 先生

『乳房再建手術について』

講師:形成外科統轄科長 滝 建志 先生



＜第2部 特別講演会＞ 15:10～16:20

『乳癌の標準治療2010 ー標準化と個別化の間にてー』

講師:聖路加国際病院 プレストセンター長 乳腺外科部長 中村 清吾 先生

日時 平成22年5月29日(土) 13:00 開場 14:00 開演

場所 若里市民文化ホール(ビッグハット隣り) 長野市若里三丁目22番2号

【主催】 地域がん診療連携拠点病院 長野市民病院 【問合せ先】 ☎026-295-1199 企画財務課まで



手術後の 痛みの管理

手術後の痛みが強くて我慢するのは仕方がない、あるいは痛み止めを使うと病気の治りが遅くなると思っておられる方が多いのではないのでしょうか。しかし実際は、術後の痛みを軽減すると、術後の合併症を減らして心身の回復が促進されることを示されており、積極的に鎮痛薬の投与が行われるようになっていきます。また治療技術の進歩がそれを後押ししています。



図1

手術後の痛みは全ての手術で同じではなく、手術部位や切開創の大きさによりかなりの差があります。体の表面の手術などでは、昔から行われてきた方法、すなわち坐薬や筋肉内注射の鎮痛薬を短期間使うことでほぼ対応できます。ところが、開胸術や開腹術など数日間にもわたり強い痛みが生じる手術の場合、従来の方法では不十分で別の対

応が必要になります。その代表的な方法として硬膜外鎮痛法があります。全身麻酔の開始前に背骨のすきま(椎間)から針を刺して、脊髄の手前の硬膜外腔に細い管(カテーテル)を入れておきます。このカテーテル経由で、手術中から小型の機械式持続注入ポンプ(PCAポンプ、図1)を用いて鎮痛薬の投与を開始して、術後数日間継続します。効果が十分なときは、全身麻酔から醒めた時点でほとんど痛みを感じません。ポンプからは常に決まった速さで鎮痛薬が投与されていますが、ポンプに付属したボタンを押すと鎮痛薬が追加で入る仕組みになっています。体を動かした時などに少し痛みが強くなることがありますが、そんな時に自分でボタンを押すことで迅速に痛みを軽減することが可能です。これをPCA法(患者自己調節鎮痛法)といい、最近行われる施設が増えてきています。自分の判断で薬を使って大丈夫なのかと心配されるかもしれませんが、PCAポンプでは患者さまごとにきめ細

か調整を行えるため、過量投与や副作用が問題になることはまずありません。当院では硬膜外PCA法を3千名以上の方に行ってきましたが、強い痛みを訴える方は少なく、多くの方が手術の翌日には離床され病棟内を歩行されています。

血が止まりにくくなる薬を服用されている方など安全上の問題から硬膜外カテーテルを入れることができない方では、鎮痛薬を点滴のところから持続的に投与する静脈内PCA法が行われます。硬膜外PCA法に比べるとやや鎮痛効果は劣りますが、改善の策として有用です。

また、肩の手術や下肢の人工関節置換術など整形外科領域の術後の痛みが強い手術では、超音波診断装置を用いて神経を正確にたうえでその周囲に鎮痛薬を注射する超音波ガイド下末梢神経ブロック法を、術後の鎮痛手段として用いています。

このように当院では、新しい技術も導入したうえで、手術ごとに適切な術後鎮痛法を提供することにより、患者さまの苦痛を軽減できるように努めています。

第4回病院祭開催のお知らせ

- テーマ** 「地域に支えられ15年 ~共に歩む未来へ~」
- 日時** 平成22年6月5日(土) 10:00~15:00
- 場所** 長野市民病院

入場無料
申込不要

長野市民病院は平成7年6月1日に開院し、今年の6月で15周年を迎えます。地域の皆さまに今まで支えていただいた感謝と、これからも地域の皆さまと共に歩みたいという想いから、今回の病院祭を企画いたしました。

是非、皆さまお誘いあわせのうえお気軽に来院ください。

***** 各種イベント *****

- ★救急に関する講演会
長野市民病院 救急科統轄科長 坂口 治 先生
「こんなときどうする 一家庭の救急医学ー」
小児科統轄科長 青沼 亮佐 先生
「家庭でできる子どもの急病対策」
- ★病院長と話そう
- ★各種体験コーナー
- ★施設見学ツアー
- ★キッズコーナー
- ★ボランティア「はづきの会」によるバザー
- ★ものまね「ホリ」によるスペシャルイベント
- ★Candy*Rose(川原三恵子さん)による講演・合唱
- ★他、楽しいイベントをご用意しております。



※変更がある場合がございます。ご了承ください。

【問合せ先】 ☎026-295-1199 企画財務課まで

- 医師異動のお知らせ**
- 平成22年4月以降に着任した医師は次のとおりです。
- 小沢 恵介(呼吸器外科科長、乳腺外科科長)
 - 小平 農(神経内科医長)
 - 松村 美穂(外科医長)
 - 市山 崇史(呼吸器内科医師)
 - 伊藤 伴子(麻酔科医師・手術センター医師)
 - 大月 聡明(病理診断科医師)
 - 酒井 貴弘(循環器内科医師)
 - 塚田 学(泌尿器科医師)
 - 濱 ゆき(形成外科医師)
 - 藤田 顕(放射線科医師)
 - 山本 宏幸(整形外科医師)
 - 浅井 裕子(臨床研修医)
 - 北原 順一郎(臨床研修医)
 - 後藤 正博(臨床研修医)
 - 佐々木 奈津子(臨床研修医)
 - 志摩 温(臨床研修医)
 - 中島 舞子(臨床研修医)
 - 中村 晃(臨床研修医)
- (4月1日付)